

Olga Pashchenko

The QUEEN of Keyboard



オルガ・パシチェンコ

オランダを拠点とするオルガ・パシチェンコは、世界中で活躍する最も多才なキーボード奏者の一人であり、フォルテピアノ、チェンバロ、オルガン、現代ピアノを巧みに演奏し、自ら鍵盤楽器奏者と言う。

歴史的楽器によるバッハやベートーヴェンから現代ピアノのリゲティまで幅広いレパートリーを持っている。

6歳の時にグネーシン音楽学校でタチアナ・ゼリクマンに師事し、9歳の時にニューヨークで初めてのピアノリサイタルを行った。その後、モスクワ国立チャイコフスキー音楽院でアレクセイ・リュビモフにフォルテピアノとモダンピアノを、オルガ・マルティノワにチェンバロを、アレクセイ・シュミツにオルガンを学び、2014年にアムステルダム音楽院でリチャード・エガーに師事して修了した。2017年にはアムステルダムのスウェーリンク音楽院とゲント王立音楽院の教授に最年少で任命された。

協奏曲のソリストとして、18世紀オーケストラ、マイニンガー宮廷楽団、ポツダム音楽祭でカペラ・アウグスティーナ、アムステルダム・シンフォニエッタ、ワルシャワ・ショパン音楽祭でヴァーツラフ・ルクス指揮コレギウム1704、テオドル・クルレンツィス、ヘルシンキ RSO 音楽祭でアレクセイ・リュビモフとフィンランド・バロック管弦楽団と共演している。

最近、オルガはゲオルグ・ニグルとのリサイタルでザルツブルク&ベルリン音楽祭にデビューした。コンサートヘボウやロンドンのウイグモアホールなどの著名なホールでも演奏活動をたびたび行っている。

Alpha Classics の専属レコーディングアーティスト。デュセック、ベートーヴェン、メンデルスゾーン、モーツァルトなどを録音し、2月にはメンデルスゾーン（ファニーとフェリックス）の録音を発売する。